

# キャリア教育の取組について



令和4年1月25日

初等中等教育局児童生徒課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

## キャリア教育:

社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア(※)発達を促す教育

(※キャリア・・・人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね)

## 職業教育:

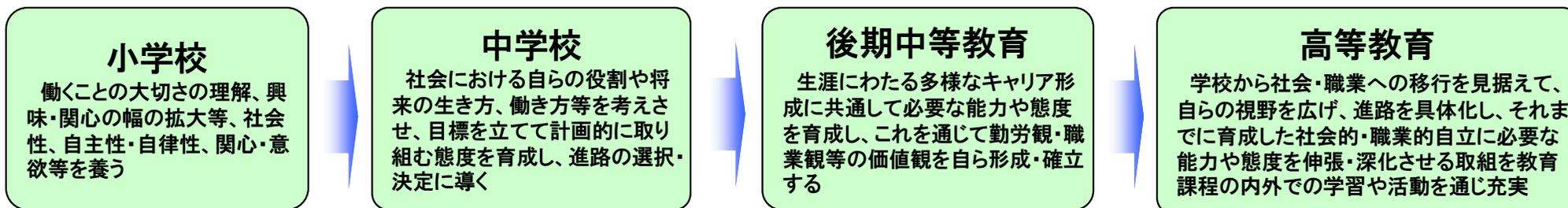
職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するもの。

### 方向性

幼児期の教育から高等教育まで、**発達の段階に応じ体系的に実施**

**様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力を中心に育成**

各学校段階におけるキャリア教育推進の主なポイント



### 基礎的汎用的能力

「**人間関係形成・社会形成能力**」 多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力。

「**自己理解・自己管理能力**」 自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力。

「**課題対応能力**」 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

「**キャリアプランニング能力**」 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

学びに向かう力・人間性等

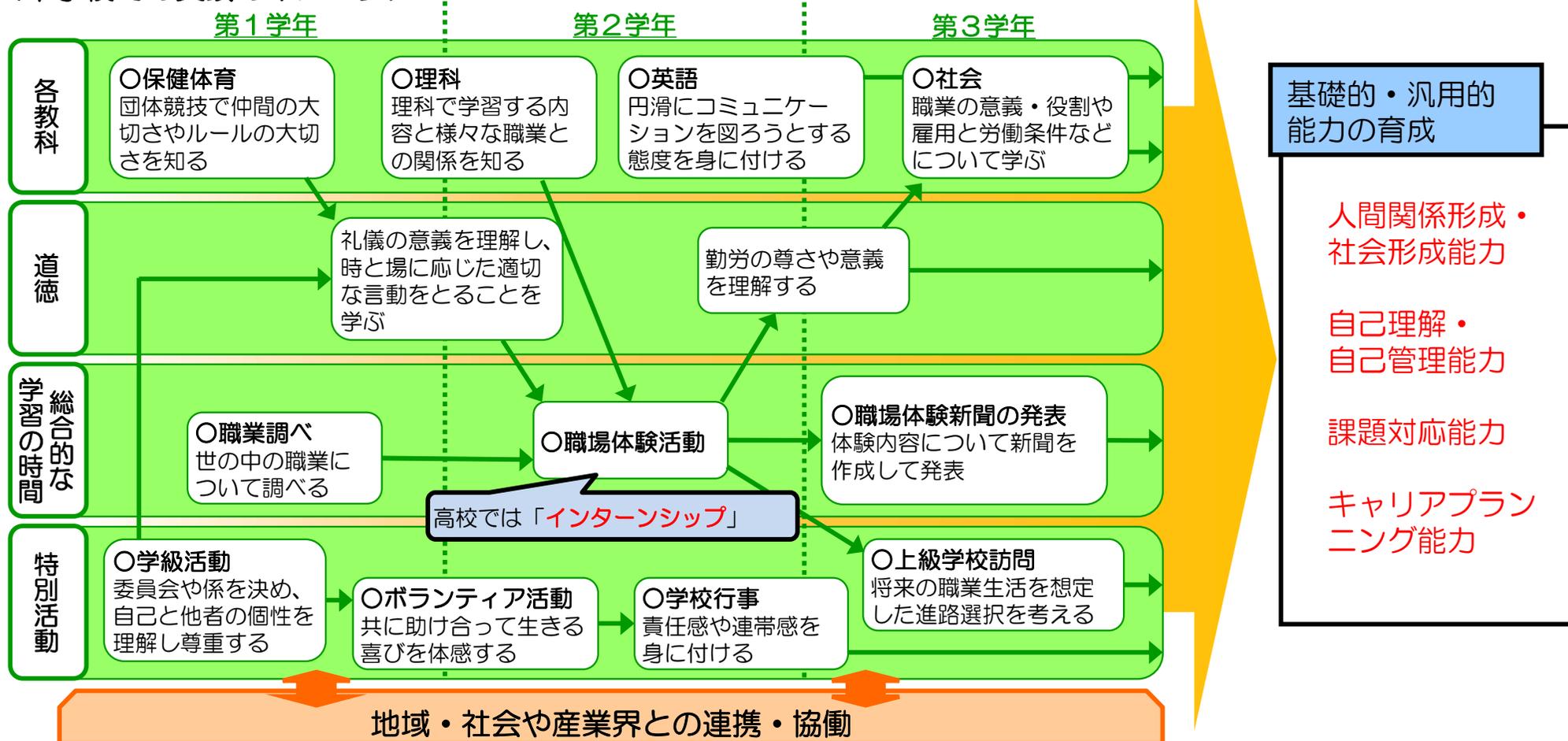
知識・技能

思考力・判断力  
・表現力等

# 学校におけるキャリア教育の取組

- 職場体験・インターンシップなどの体験的な学習を効果的に活用し、地域・社会や産業界と連携しながら、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度を育成（自分らしい生き方を実現するための力を育むこと）。
- 学校における教育活動の一つ一つを、基礎的・汎用的能力の育成の観点から体系的・系統的に再構成・実行することにより、児童生徒のキャリア発達を促す。

## <中学校での実践のイメージ>



# 仙台市におけるキャリア教育の実践事例

## 実践の具体例 ②

地域のいろいろな人・もの・他とのかかわりの中で「かかわる力」の育成を目指しています。

蒲町中学校区（蒲町小学校・大和小学校と蒲町中学校）

### 蒲町小学校【総合的な学習の時間】

異学年交流による地域とのかかわり自然とのかかわり



1～6年生まで全員で米作りをします。いつも食べているご飯は、簡単に作られたものではないと分かりました。

### 大和小学校【4年総合的な学習の時間】

高齢者車椅子体験



初めは、何だか楽しそうに見えましたが、やってみたらとても大変でした。車椅子を使っている人の苦勞が分かったと思います。

### 蒲町中学校での授業風景【理科】

友だちとのかかわり



実験結果について友だちと話し合いながら予想することで、自分とは違う考え方を知ったり、協力して実験したりすることの大切さを学びました。

## 「かかわる力」の育成 → 小中連携

### 蒲町中学校での2学年での職場体験活動

【総合的な学習の時間】  
職場の方々とのかかわり



人とかかわり合いながら、コミュニケーションを取る大切さ、礼儀など、仕事に従事することの大変さを学びました。そして、何よりも普通の学習の大切さを実感しました。

### 蒲町中学校での「職場体験活動」学習発表会

【総合的な学習の時間】  
1年生、中学校区小学6年生児童とのかかわり



職場体験で学んできたことを分かりやすく相手に伝えることは大変でした。体験学習したことを、様々な場面で生かしていきたいです。

## 実践の具体例 ⑤

小中合同授業検討会を通して、小中連携した『自分づくり教育』を目指しています。

西山中学校区（西山小学校・燕沢小学校・柗江小学校・鶴谷東小学校と西山中学校）

各学校（5校）で昨年作成したカリキュラムに沿って、『かかわる力』を中心に「国語」と「総合的な学習の時間」の指導案を作成し、授業を公開。互いに参観し、授業後は小中合同で検討会を行い、共通理解を深めた。

### 小3「世界のこんにちはと文字」

「いいあいさつ」ってどんなあいさつかを考えた後、いろいろな国の「こんにちは」を紹介し、国当てゲームをしました。



西山小「国語」



西山中「国語」

### 中1「分かりやすく話そう」

様々な伝言メモを分かり易く聞き手に伝えるよう、工夫して、班で発表し、お互いに良い点をアドバイスしました。



西山中「総合的な学習の時間」



小中合同授業検討会

### 小1「おみせやさんごっこ」

お店屋さんとお客さんに分かれて、話し方・聞き方のめあてを持ち、楽しみながら活動しました。



燕沢小「国語」

『目指す生徒像』に向けて、小中でのどのような連携の仕方・指導が必要なのかを確認することができました。

### 中3「自分史づくり～アドバイスを～」

自分史を作っていく中で、自分の将来像を、班の中で発表し、お互いにアドバイスをしました。



柗江小「国語」

### 小6「夢に向かって」

自分の将来の夢を語り合い、これからどのように努力していくかを各ジャンル毎に発表しました。



鶴谷東小「総合的な学習の時間」

### 小1「わたしはなんでしょう」

グループに分かれて、「わたしはなんでしょう」ゲームを行い、話し方名人、聞き方名人になりました。

## 広島県立三次高校の取組

### 内容

- キャリア教育の中核となる教科・科目として、国際交流教育、道徳教育及び総合的な学習の時間の教育内容等を盛り込んだ学校設定教科「キャリア」を新設し、教育課程に位置付けた。
- 学校設定教科「キャリア」の中に学校設定科目「巴峡Ⅰ」「巴峡Ⅱ」「巴峡Ⅲ」を各学年で1単位ずつ取り入れ、教育内容を系統付けた。
- グローバルな視点・知見を持った上で地域社会への貢献を志す生徒を育成、また各学年で段階的にキャリアプランニング能力の育成を図るため、「巴峡Ⅰ」には「プレゼンテーション・ミニディベート活動」、「巴峡Ⅱ」には「プレゼンテーション・ディベート活動」及び「近未来体験活動」、「巴峡Ⅲ」には「面接」「自己ピーアール練習」等を取り入れた。



### 効果

- 3学年のセンター試験受験率が過去最高の98.7%となったことから、生徒の学習意欲が進路目標の設定に良い影響を与えている。
- マイロード清掃活動ボランティア、小学生対象学習支援ボランティア等に積極的に参加する生徒が増加し、社会貢献への意識が高まった。
- 教員の教科指導においては、「志」を持った生徒を育てるという共通認識を持って「学ぶ」ことの意味付けを意識した授業を実施するようになった。
- 国際交流教育、道徳教育及び「ことばの教育」等の教育内容をキャリア教育の視点で見直して実施したことで、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心等の豊かな人間性が学校全体に定着してきた。

### 課題

- 学校設定科目「巴峡Ⅰ」「巴峡Ⅱ」「巴峡Ⅲ」の評価方法及び「生徒に身に付けさせたい力」の評価基準の設定等を明確にする必要。
- 産業界・関係機関の協力体制について更なる協議を進めていく必要
- 国際理解を深める学校行事等を実施するための外部講師確保のため関係機関JICA等との連携により派遣先を開拓する必要。

## 立命館宇治高校の取組

### 内容

- キャリア教育の中核となる教科・科目として、高校1年生に「CSL」を設置する。  
※CSL...キャリア・サービス・ラーニングの略。  
単位数は1とし、総合的な学習の時間を活用している。
- 「CSL」は「キャリアデザイン」「ソーシャルスキル」「サービスラーニング」の3つの分野から構成されている。
- 「キャリアデザイン」...自らの将来を考える時間として、将来の目標設定、進路講演、文理選択ワーク、開発教育手法による働くことについて学ぶ授業の実施。
- 「ソーシャルスキル」...人や自分とかわる力を育てる時間として、ストレス耐性、認知と行動、人への言葉かけなどについて学ぶ授業を実施。
- サービスラーニング...ボランティア活動を中核とし、ボランティアとは何かを知る、先輩の経験を知る、活動のプレゼン・ふりかえりを行う授業を実施。
- 学びの集大成として「自分マニフェスト」の作成、学んだことのプレゼンの実施。



### 効果

- キャリア教育の中核となる授業を設けることで、生徒は自ら将来について考え、自分で決定できるようになる。
- 高校1年生の進路意識の高さについて教員・生徒ともに実感している。年度末アンケートの後輩への助言でも「この授業を大切にしてほしい」「生きる上でためになる」等、生徒自身がこうした授業を必要としていることがわかる。
- 「働くことの魅力」「将来を考える」といったキャリア教育の根幹といえる部分に生徒が手応えを感じている。
- CSL授業を通して、苦手な人とも付き合えると感じていることが示唆され、コミュニケーション効力感が高くなっている。

### 課題

- 今年度は総合的な学習の時間としての文章評価にとどまり、学びや成長をどのように評価するかは継続課題。「この授業を通して生徒にどんな力をつけるのか」「学んだことが行動や考え方にどのように影響したのか」を明らかにする必要。
- 2年次以降も総合的な学習の時間において探求基礎→卒業課題研究とキャリア企画を実施するが、「自分の将来について本音で語りあう時間」の確保が不十分。高校2年生以降へどうつなぐかが課題であり、検討する必要。
- ボランティアのコーディネートは教員にとって負担であり、継続実施のためにも外部人材との連携の在り方について検討する必要。

# 「キャリア・パスポート」について

## 背景（新学習指導要領抜粋）

### ○新学習指導要領 総則（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校（小・中・高等部））

児童生徒が、「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていく」ことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」

### ○新学習指導要領 特別活動（小・中学校、高等学校、特別支援学校（小・中・高等部））

「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、児童生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」

## 「キャリア・パスポート」の例示資料等を作成（H31年3月、全都道府県教育委員会等に周知）

中学3年生 学年初め		中学3年生 学期を振り返ろう	
記入日 年 月 日		記入日 年 月 日	
○今の自分を見つめて		○今学期を振り返って	
今の自分（自分の好きなこと・もの、得意なこと・もの、頑張っていることなど）		学期初めに身につけようと思ったことについて、自分の気持ちに一番近いところに○をつけよう	
私の自己PR（自分のよいところ）		学習面で	あてはまる
こんな大人になりたい（将来の夢）		身につけようと思ったことが身についたと思う	ややあてはまる
そのために、つけたい力		生活面で	あまりあてはまらない
		身につけようと思ったことが身についたと思う	あてはまらない
		家庭や地域で	
		身につけようと思ったことが身についたと思う	
		その他（習い事・資格取得など）で	
		身につけようと思ったことが身についたと思う	
○なりたい自分になるために身につけたいこと（目標）と、そのために取り組みたいこと		○各項目の振り返りと、今後、挑戦・行動しようと思うこと	
学習面の目標	そのために	学習面で	今後は
生活面の目標	そのために	生活面で	今後は
家庭・地域での目標	そのために	家庭や地域で	今後は
その他（習い事・資格取得など）の目標	そのために	その他（習い事・資格取得など）で	今後は
先生からのメッセージ	保護者などからのメッセージ	今学期を振り返って、新しく発見したこと、気付いたこと	
		先生からのメッセージ	保護者などからのメッセージ

例：中学3年生（学期初め・学期末）

## 「キャリア・パスポート」

児童生徒が自らの学習活動等の学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材

- 記述するワークシートは児童生徒の発達段階を踏まえた構成とし、小学校から高等学校までの「学びの記録」とする
- ワークシートの散逸を避け、有効に振り返りができるように小学校から高等学校までの記録を一冊に綴じ込むこととする
- 国及び教育委員会が示すワークシートを参考として、地域の実情や各学校の特色等に応じたワークシートを作成する
- 進級進学時には、次の学年・上級学校に持ち上がり、継続的かつ系統的に蓄積する

※キャリア教育に係る文部科学省の取組については、文部科学省HPに掲載（URL…[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)）

QRコード



## 背景・課題

児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる資質・能力を育成するため、学校が地域や産業界等と連携した小学校の職場見学、中学校の職場体験活動及び高等学校の就業体験活動（インターンシップ）を促進するとともに、児童生徒が主体的に進路を選択することができるよう、「キャリア・パスポート」等の教材を活用しつつ、体系的なキャリア教育を推進する。

## 事業内容

### 1. キャリア教育の普及・啓発

3百万円(3百万円)

#### ◆キャリア教育推進連携シンポジウムの開催、連携表彰等の実施

キャリア教育の意義の普及・啓発と推進に資するため、学校、地域・社会及び産業界等の関係者が一堂に会したシンポジウムを、文科省・経産省・厚労省の共催で開催するとともに、キャリア教育の充実・発展に向け優れた取組を実施している団体等を表彰する。

### 2. キャリア教育推進体制の構築

17百万円(18百万円)

#### ◆小・中・高等学校等における起業体験推進事業

9百万円(10百万円)

小・中・高等学校等において、児童生徒がチャレンジ精神や、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代に求められる起業家精神及び起業家的資質・能力の育成を目指した起業体験活動を行うモデルを構築し、全国への普及を図る。

対象  
校種

小学校、中学校、高等学校等

委託先

都道府県教育委員会等  
6地域

委託  
対象経費

講師謝金、旅費、印刷費等

#### ◆地域を担う人材育成のためのキャリアプランニング推進事業

8百万円(8百万円)

【学校を核とした地域力強化プランの一部(地方創生関連施策)】

「キャリアプランニングスーパーバイザー」を都道府県等に配置し、地元企業等と連携した職場体験やインターンシップ及び地元への愛着を深めるキャリア教育の推進等を通じ、地元で就職し地域を担う人材を育成する。

対象  
校種

小学校、中学校、高等学校等

実施  
主体

都道府県  
市区町村

補助  
割合

補助率(国:1/3 県市:2/3)

補助  
対象経費

諸謝金、旅費等

# 小・中・高等学校等における起業体験推進事業

令和4年度予算額(案)  
(前年度予算額)

9百万円  
10百万円



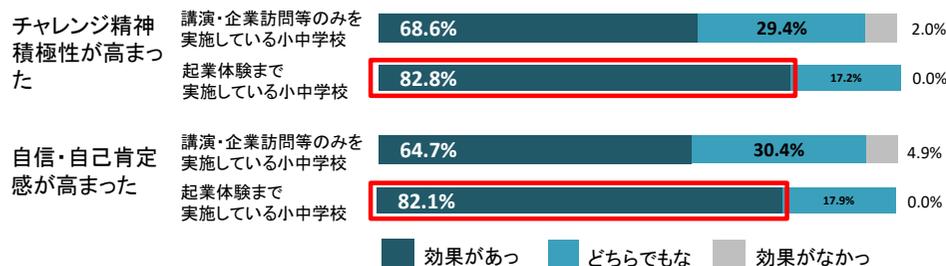
## 背景・課題

- ◇ チャレンジ精神、創造性探究心等の「起業家精神」や、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の「起業家的資質・能力」は、起業家や経営者だけでなく、どのような立場であっても社会で活躍するために重要である。**高い自己肯定感や自己有用感、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きていくために誰もが必要な力を育むことが求められている。**
- ◇ 新学習指導要領において、**小・中学校段階からキャリア教育の充実を図ることが明確に位置付けられ**、中教審答申では「**小学校から高等学校までを通じ**(中略)高等学校は(中略)義務教育段階での取組をより発展させる形で、(中略)キャリア教育の充実を図ることが必要である。」とあるように、**高等学校等までの系統的なキャリア教育及び一層の充実が求められている。**また、**新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」では、身近な地域・社会との連携・協働を重視しており、地域・社会の魅力や課題等を深く認識し、その解決を地域・社会の構成員の一人として担う等、社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を身に付けられるようにすることが求められている。**
- ◇ **児童生徒1人1台端末環境と高速大容量の通信ネットワーク環境の実現により空間的・時間的制約が緩和されたことで、これまでの取組を基に更なる創意工夫を凝らした先進的な実践や新たな取組が期待できる。**

## 事業内容

小・中・高等学校等において起業体験活動を行う地域を指定し、モデルを構築する。平成28年度より対象を小・中学校等として実施してきたが、新学習指導要領及び中教審答申を受け、小・中・高等学校等までの系統的なキャリア教育の充実が求められたことから、対象を拡大する。

具体的には、外部講師のサポートを得ながら児童生徒が模擬会社設立、商品開発、販売、決算といった会社の実体験を通じて、集団や地域・社会の形成者である自覚を育み、社会参画意識を醸成するとともに、チャレンジ精神や自己肯定感・自己有用感を高めるために1人1台端末などICTの活用等、児童生徒の発意・発想を生かした主体的、体験的な学習を実施する。



※起業家教育のススメ(指導事例集)を基に作成 (平成27年3月初等中等教育段階における起業家教育普及に関する検討会)

対象 校種	小学校、中学校 高等学校等	委託先	都道府県教育委員会等 6地域	委託 対象経費	講師謝金、旅費 印刷費等
----------	------------------	-----	-------------------	------------	-----------------



### 各校種における発達段階を考慮した 系統性のイメージ(例)

#### 高等学校

実社会に生きる起業家精神及び起業家的資質・能力を育むとともに、起業の意義と会社設立の手続き等を体験的に学ぶ機会を重視する。特に、生徒の発想を生かすとともに行政や地域の経済団体等と連携・協働した起業家体験を実施する。

#### 中学校

創造性探究心やリーダーシップ等、起業家精神及び起業家的資質・能力を育む体験活動を重視する。特に、地域課題解決や地域活性化を意識した商品開発やシステムの構築などの新しい価値を創造する起業家体験を実施する。

#### 小学校

チャレンジ精神やコミュニケーション力等、教科等の学びで身に付けた起業家精神及び起業家的資質・能力を実践的に生かし、より伸長する学習機会を重視する。特に高学年においては総合的な学習の時間などを中心に地域の住民や産業と連携した起業家体験活動を実施する。

# 地域を担う人材育成のためのキャリアプランニング推進事業 【学校を核とした地域力強化プランの一部】

令和4年度予算額(案) 8百万円  
(前年度予算額) 8百万円



## 背景・課題

◇Society 5.0に向けた人材育成～ 社会が変わる、学びが変わる ～(平成30年6月5日 大臣懇談会・省内タスクフォース決定)

第3章(3)②地域の良さを学びコミュニティを支える人材の育成

高等学校と地元市町村・企業等の連携により、地域課題の解決等の探求的な学びを実現する仕組みの構築や、進路決定後に地元を離れる生徒も対象としたインターンシップを促進

◇まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020改訂版(令和2年12月21日閣議決定)

第2章. 1. (2)②修学・就業による若者の地方への流れの推進

地元への愛着がUターン希望を左右するといった指摘があることから、**地域に誇りを持つプログラム**を以下の施策等を通じて推進する。

・**地元就職に資するキャリア教育の推進**

◇まち・ひと・しごと創生基本方針 2021(令和3年6月18日閣議決定)

第3章. 2. (1)②修学・就業による若者の地方への流れの推進

小・中・高等学校におけるキャリア・パスポートの活用について、小・中・高等学校間の継続性を図り、**より地元企業への理解を深め、地域の実情に応じた小・中・高等学校が一貫したキャリア教育を推進する。**

## 事業内容

「キャリアプランニングスーパーバイザー(CPSV)」を教育委員会等に配置し、地元への愛着を深めるキャリア教育の推進等を通じ、**地域に就職し地域を担う人材の育成**を図る。

<令和2年度 配置人数22人>

○小・中・高等学校を通じ、地元への理解や愛着を深めるキャリア教育の推進

○職場体験やインターンシップの受け入れ先の開拓及び学校と企業等とのマッチング

○教職員及び学校に配置された外部人材への支援・

相談・情報提供

○生徒へのキャリアカウンセリングや企業の情報

提供などの就労支援

○高校や地域若者サポートステーション等と

連携し、中退者や高校卒業後早期

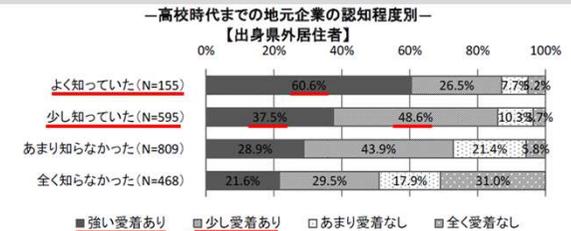
離職した者等への就労支援

(例・地域におけるキャリア教育推進のための協議会)

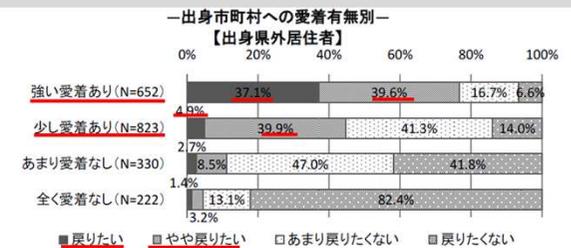


## (参考) 出身市町村へのUターン希望状況

### 出身市町村への愛着



### 出身市町村へのUターン希望



高校時代までに(転出前に)地元企業を知ったことが、転出後も出身地への愛着として残り、Uターン希望につながっていることがうかがえる。

※「地方における雇用創出-人材還流の可能性を探る-(独立行政法人労働政策研究・研修機構)」をもとに作成

対象  
校種

小学校、中学校、高等学校等

実施  
主体

都道府県、市区町村

補助  
割合

補助率(国:1/3 県市:2/3)

補助  
対象経費

諸謝金、旅費等

# 進路指導について

## 生徒指導・進路指導の改善等について（通知）

（28文科初第655号 平成28年7月29日）

### 2. 進路指導の在り方

#### （1）基本的事項

- 進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持って、主体的に自己の進路を選択し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育成することが重要であり、このため、各学校が進路指導の目標を持ち、その実現を目指して教育活動全体を通じ計画的、組織的、継続的な指導を行っていくことが必要であること。

#### （4）保護者との連携及び情報提供

- 進路指導を効果的に進めるためには、保護者の理解と協力が不可欠であるため、教員及び保護者間の相談並びに教員、生徒及び保護者の三者による相談が円滑に行われるよう、家庭との連携を密にしながらい進路指導を進めること。